

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 20日から21日にかけては、北海道付近から千島近海に低気圧が東進する。
- 21日から24日にかけては、東シナ海に前線が停滞する。
- 期間を通して日本のはるか東には高気圧があり、高気圧の周りを回る湿った空気が本州付近に流れ込みやすい状況が続く。

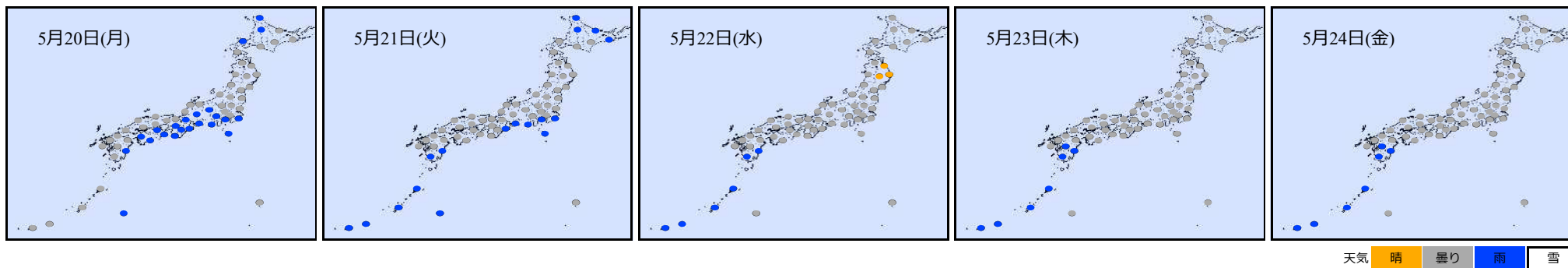
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 令和6年能登半島地震で揺れの大きかった地方は地盤の緩んでいる所があり、少しの雨でも土砂災害の危険度が高まるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

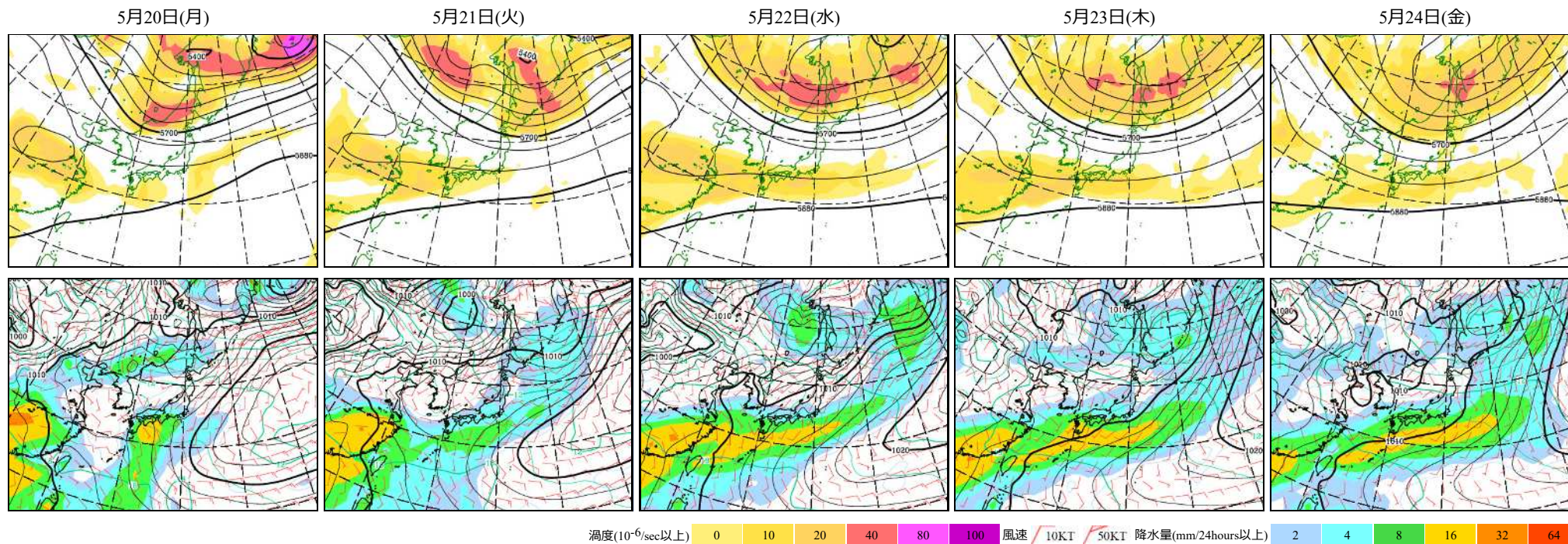
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

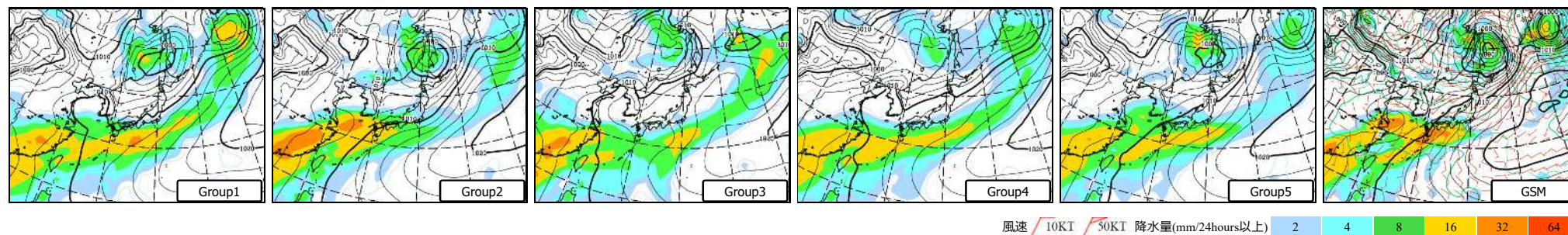


- 北日本では、曇りの日が多く20日から21日にかけては北海道で雨の所がある。
- 東日本から西日本では、曇りの日が多く太平洋側では雨の所がある。
- 沖縄・奄美では、雨の日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆5月22日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 21日までは各モデルとの違いは小さい。22日以降は日本の南に東西にのびる降水域にばらつきが見られ、海外モデルではENSより南に予想する傾向がある。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- ENSを基本とし、海外モデルの傾向を加味して予報を作成する。

今日から明後日までの解説は「短期予報解説資料」を参照ください。